

1 学校教育目標 夢に向かって生き生きと輝く児童生徒の育成 ～共に伸びゆく中央校をつくろう～	2 本年度の重点目標 1 教職員の協働力を発揮した義務教育学校の推進。 2 確かな学力の定着と教師の指導力の向上。 3 個に対応した特別支援教育の充実。 4 地域と共にある学校:コミュニティ・スクール
---	---

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価						
① 教職員の協働力を発揮した義務教育学校の推進。						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	○教職員の 資質向上	学習指導、生徒指導の充実	○新学習指導要領への円滑な移行を行う。 ○生徒指導に関する教職員の意識向上。	○新学習指導要領の周知徹底を図るため、講師招聘の研修会を年2回行う。 ○各教科カリキュラムを見直し、計画的実施を行う。 ○月1回の情報交換会を行い、不登校、問題行動の未然防止、早期発見、早期対応に生かせるようにする。	校内研究 特別支援	田中美香月 松尾久 古川昇
教育活動	●志を高める 教育	夢に向かって生き生きと輝く児童生徒の育成	○夢の実現に向け、「具体的目標を決めて努力している。」と答える児童生徒80%を目指す。	○全国学習状況調査における児童生徒への質問項目「将来の夢や希望をもっているか。」について、肯定的回答が80%を超えるように、日々の教育活動に目的意識を常に持たせる。また全ての活動は自分の将来につながっているのだと自覚させる。 ○自己肯定感が高められるよう、言語活動を充実した授業実践を行う。	キャリア教育	田中慶 轟木
学校運営	●業務改善・ 教職員の働き 方改革	効率の良い業務改善によって児童生徒によりそう時間の確保	○時間外勤務時間を1か月あたり前年度比80%まで削減する。	○管理職や主幹教諭、指導教諭によるOJTやメンター制度の活用等によって、効率的な教育活動の取組についての支援と指導を行う。 ○定時退勤日を週2回設定し、最低1回は職員が実行させる。	管理職 主幹	栗山
② 確かな学力の定着と教師の指導力の向上						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●学力向上	指導方法の改善	○授業において、学び合い学習の効果的実践によって児童生徒の学習意欲を高めていく。 ○学習内容の基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。 ○ICT機器を効果的に活用した授業づくりを行い、児童生徒が「電子黒板等を使った授業は分かりやすい。」と答える児童生徒90%以上を目指す。	○「授業づくりのステップ1、2、3」リーフレットを活用した授業実践を行い、校内研究会の中で検討、改善を行う。 ○前期課程で週4日15分の補充学習の時間である「きらきらタイム」、後期課程で年間70時間の外部人材を活用した補充学習を行う。 ○児童・生徒が意欲的に取り組むためのデジタル教材の活用と、指導法の工夫・改善を行う。	校内研究	田中美香月 古川能大 山田南里
教育活動	○学習規律	学習規律の定着・家庭学習の定着	○学習の心構え「かつお(前期課程)」「はあと(後期課程)」の徹底を図る。 ○家庭学習に毎日取り組む児童生徒95%以上を目指す。	○「おトイレ」「つぎの準備」「かたづけ」「話を聞く」「挨拶をする」「時計を見て動く」について、学期に1回のアンケート調査を行い意識化と実践力を高めていく。 ○「家庭学習の手引き」を全家庭に配布し、学期ごとに各家庭に振り返りアンケートを調査を行い、家庭教育力を高める。	学習指導	古川能大 大串
学校運営	○教師の指導 力向上	教師の授業力の向上	○互いに学び合いながら、自ら伸びようとする意欲を高める。 ○メンターから指示を与えられるだけでなく、自ら考えて授業改善が図れる人材の育成。	○管理職や主幹教諭、指導教諭が日常的に短時間の授業参観を行い、よりよい授業改善が図れるように助言と支援を行う。	管理職 主幹 教務	栗山
③ 児童生徒の豊かな心、健やかな体の育成と個に対応した特別支援教育の充実						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●いじめ問題 への対応	いじめの防止 早期発見 早期対応 解消	○「いじめ見逃しゼロ」を目指す。	○アンケートや「心のポスト」を活用して、いじめの防止と早期発見、早期対応、解消に努める。 ○QUアンケートを年間2回実施し、分析結果をもとにした研修を行い、学級づくりに活かす。	生徒指導	桑原 宮原照
教育活動	●心の教育	豊かな心の育成	○我慢・親切・見つけ・正直・感謝の5つの心を磨く取り組みを全学級・全職員で実施する。	○道徳の時間の充実及び「いのちの授業」を各学年とも年間3回実施する。 ○道徳や学活、総合的な時間において「自問清掃」を理解させ、実際に行動に移させることにより、自己の向上を図らせる。 ○文化的活動を推進し、後期課程の文化部の活動を促進する。	学習指導	堀元 嶺川
教育活動		他者との共生	○児童会・生徒会による活動、前期・後期の交流活動を充実させる。	○児童会活動、縦割り班活動を計画的に位置付けて実施する。 ○生徒会、専門部会の活動を計画的に位置付け、実施する。	特別活動	山田 館林
教育活動		個に応じた特別支援教育の充実	○個に応じた特別支援教育の研修及び充実を図る。 ○全職員が情報を共有し、個に応じた指導が日常的に行えるようにする。	○合理的配慮の具体的な対応及び改善、充実に取り組む。 ○交流学級との連携強化。 ○特別支援教育コーディネーターを中心に、管理職、特別支援担当者、担任、支援員が参加した情報交換会を定期的、臨時的に行い指導の共通理解を図る。情報は全職員で共有する。	特別支援	片淵 古川昇
教育活動	●健康・体づくり	健やかな体の育成 望ましい生活習慣の形成	○チャレンジランキングに意欲的に取り組む児童90%以上を目指す。 ○生活リズムの確立を目指した取組を、全学級・全職員で実施する。 ○運動部活動の充実。	○授業及び授業外でチャレンジランキングに取り組むよう、ランキングを意識させながら児童の意欲を高める。 ○全学級、全ての授業において、始めと終わりに「立腰」を行う。 ○運動部活動に外部人材を活用し、後期課程の運動部の活動を促進する。	保体部	宮原尚 宮原照
教育活動	○強い心づくり	基本的な生活習慣の定着	○「早寝・早起き・朝ごはん」が身についている児童生徒100%を目指す。 ○挨拶・返事・履物そろえが、いつでもできる児童生徒90%以上を目指す。	○保護者に基本的な生活習慣の確立について、学級通信、学校便り等で啓発活動を継続する。 ○生徒指導部を中心に挨拶・返事・履物そろえができる児童生徒を称賛する場を設定していく。	生徒指導	桑原 宮原照
教育活動	○「多久に生きる子」の育成	郷土愛(多久愛)の醸成	○全学年で、年間1回以上、「郷土(多久)のよさ」の発見にかかわる学習活動を仕組む。	○「多久学」を、総合的な時間や各教科の時間に位置づけ、論語カルタ等、体験的な学習活動に取り組む。	学習指導	楠原 轟木
④ 地域と共にある学校:コミュニティ・スクール						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	○家庭・地域との連携(コミュニティ・スクール)と小中一貫教育の推進	家庭や地域との連携	○学校運営協議会を、年間6回実施し、学校の課題解決や地域連携教育の充実を図る。	○コミュニティ・スクール推進のための校内組織を充実させ、協議会や学校応援団活動の計画、及び運営方法を十分に検討した上で、実施する。	地域連携	栗山
		義務教育学校としての小中一貫教育の推進	○義務教育学校の特色を生かした校時表の活用と学校行事を実施する。	○朝の時間は全児童生徒が朝読書に取り組む。 ○前期・後期合同の入学式、交流遠足、ふれあい給食を実施する。	教務	陣内 魚永
			○義務教育学校の特色を生かした不登校対策を行い、不登校児童生徒の割合を前年度比50%まで削減する。	○毎週火曜日に教育相談、生徒指導連絡会、ケース会議等で情報共有や対応策を共通理解し、不登校の削減を図る。	生徒指導	桑原 宮原照
			○9年間を見通し、キャリア教育の視点から、児童生徒が夢の実現に向かい、自ら学び続けようとする力や、「怒」の心を育む。	○キャリア教育の視点を持ち、3つの学年ブロックが中心となって教育実践を行う。 ○一部教科担任制や前期・後期教員の相互乗り入れ授業を実施する。	学習指導 教務	田中慶 轟木 陣内 魚永

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目